

平成21年3月31日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18520035
 研究課題名（和文） 五経正義の総合的研究
 研究課題名（英文） A Study of Wu Jing Zheng Yi
 研究代表者 野間 文史（NOMA FUMICHIKA）
 広島大学・大学院文学研究科・教授
 研究者番号：20110158

研究成果の概要：

報告者は『春秋正義』全60巻の訳注を企図し、その第一歩としてすでに巻1～4を発表しているのであるが、本研究はその第二歩として、①『春秋正義』巻5・6・7の校定本・校勘記・訳注を作成すること、②『五経正義』をめぐる諸問題を考察することである。

その成果として、①は冊子体にして公刊する。②は論文として10編を発表した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,100,000	0	1,100,000
2007年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,100,000	600,000	3,700,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・中国哲学

キーワード：十三経注疏・五経正義・春秋正義・阮元・山井鼎

1. 研究開始当初の背景

我が国の『五経正義』の翻訳は、半世紀以上前の吉川幸次郎氏『尚書正義』が唯一の完訳書である。また『十三経注疏』としては、『孝経正義』が宮本勝氏他によって『孝経注疏訓注』として完訳されたのみである。そして近時の蜂屋邦夫氏『儀禮注疏』の翻訳は、『儀禮士冠疏』・『儀禮士昏疏』の両書を以て終了し、岡村繁氏『毛詩正義訳注第一冊』、

また公羊注疏研究会『公羊注疏訳注稿』はいずれも未完のまま中止された。まことに完訳の困難さを痛感する。

2. 研究の目的

申請者は平成12・13・14年度の科学研究費・基盤研究(C)(2)「春秋正義の発展的研究」によって、『春秋正義』全訳注への第一歩を

踏み出し、さらに平成 15・16・17 年度の科学研究費・基盤研究(C)(2)「春秋正義の総合的研究」によって、第二步を経たが、本研究はさらにこれを継続するものである。

3. 研究の方法

本研究は、(1)『春秋正義』全 60 巻の校勘記を作成すること、(2)『春秋正義』全 60 巻の校定本を作成すること、(3)『春秋正義』の訳注を継続すること、(4)『五經正義』をめぐる諸問題を考察すること、である。

(1)は、伝統的な方法を継承しつつ、慶元刊本・正宗寺本を用いて『春秋正義』の校勘記の完璧を期するものである。(2)に関しては、1999 年、《十三經注疏》整理委員會(李學勤主編)『標点本十三經注疏(簡體版)』が北京大學出版社より刊行され、次いで 2000 年には「繁體版」、さらにまた 2001 年、台湾の新文豐出版公司より、「中華叢書」として「十三經注疏分段標点本」(國立編譯館主編)が公刊されたことが注目される。しかし申請者の検討したところによれば、2 種類ともに、かなり不満足な出来栄えと言わざるをえない。したがって申請者は(1)を踏まえた「校定文」を作成する。

4. 研究成果

予定通り、『春秋正義』巻 5・6・7 の校定文・校勘記・訳注(A4 版全 250 頁)を完成させた。本年度から特定領域研究以外では冊子体の「研究成果報告書」提出の必要が無くなったが、従来の冊子体の形式で発表する。その内容を、「はしがき」と「目次」とによって示すと、以下の通りである。

「はしがき」

報告者は平成 9・10・11 年度の科学研究費・基盤研究(C)(2)「春秋正義の基礎的研究」の交付を受けた。その成果は平成 11 年度「研究成果報告書」として、以下の内容のものを報告した。

五經正義語彙語法筭記(一)～(四)
春秋正義校勘記(春秋正義序・附釋音春秋左傳注疏 卷第一～卷第十)
春秋正義引書索引
公羊傳疏引書索引
穀梁傳注疏引書索引

次いで平成 12・13・14 年度の科学研究費・基盤研究(C)(2)「春秋正義の発展的研究」の交付を受け、その成果を平成 14 年度「報告書」として、以下の内容のものを報告した。

譯注春秋左傳正義 卷二
春秋左傳正義校定文 卷二
読李學勤主編『標点本十三經注疏』(日

本語版)

さらに平成 15・16・17 年度の科学研究費・基盤研究(C)(2)「春秋正義の総合的研究」の交付を受け、その成果を平成 17 年度「報告書」として、以下の内容のものを報告した。

譯注春秋左傳正義 卷三・四
春秋左傳正義校定文 卷三・四
春秋左傳正義校勘記 卷三・四
宋慶元刊春秋正義刻工名表

本研究—平成 18・19・20 年度の科学研究費・基盤研究(C)「五經正義の総合的研究」—は上記の成果を踏まえ、以下の 4 点を目標とした。

- ①『春秋正義』の校勘記完全版を作成すること
- ②『春秋正義』の校定文を作成すること
- ③『春秋正義』訳注を継続すること④『五經正義』をめぐる諸問題について検討すること

年次計画

平成 18 年度 ① ②巻五 ③巻五 ④
平成 19 年度 ① ②巻六 ③巻六 ④
平成 20 年度 ① ②巻七 ③巻七 ④

以上は、本研究の科学研究費申請書のうち、「研究計画・方法」からの抜粋である。3 年の期間のうち、所期の目的はほぼ達成されたものと思う。本研究を含めた 12 年間にわたり交付を受けたことに対し、厚く感謝お礼申し上げます。

本報告書は『春秋左傳正義』巻五・六・七の「現代語訳(附:訳注)」とその「校勘記」、そして校勘記を踏まえた「校定文」から成る。

また 2007 年 9 月、北京清華大學歴史系の彭林教授のお招きにより、2007 年度經學研究中心「經學論壇」演講の機会を賜った。本研究とも関わる場所があるので、その演講計画とレジュメの一部(刁小龍氏訳)を再録する。通訳は北京大学中国古代史研究中心副教授の橋本秀美氏のお手を煩わせた。

なお本年度から特定領域研究以外では「研究成果報告書」を冊子体で提出する義務は無くなったのであるが、当初の予算の通り、また過去 3 回に続けたいということで、冊子の形式で本「報告書」を発表する次第である。

「目次」

(横組)

清華大學歴史系經學研究中心 2007 年度經學論壇 第一講:從經書經學的成立到五經正義的編纂(1)

(縦組)

譯注春秋左傳正義 卷五

桓公元年經…… 1 桓公元年傳 5

桓公二年經…… 8

桓公二年傳 ……14

春秋左傳正義校定文 卷五……61

春秋左傳正義校勘記 卷五……73

譯注春秋左傳正義 卷六

桓公三年經……79

桓公三年傳……88

桓公四年經……93

桓公四年傳……97

桓公五年經……98

桓公五年傳……104

桓公六年經……120

桓公六年傳……123

春秋左傳正義校定文 卷六……144

春秋左傳正義校勘記 卷六……157

譯注春秋左傳正義 卷七

桓公七年經……164

桓公七年傳……165

桓公八年經……168

桓公八年傳……172

桓公九年經……174

桓公九年傳……176

桓公十年經……179

桓公十年傳……180

桓公十一年經……182

桓公十一年傳……185

桓公十二年經……189

桓公十二年傳……192

桓公十三年經……193

桓公十三年傳……195

桓公十四年經……198

桓公十四年傳……201

桓公十五年經……202

桓公十五年傳……208

桓公十六年經……208

桓公十六年傳……212

桓公十七年經……214

桓公十七年傳……215

桓公十八年經……217

桓公十八年傳……218

春秋左傳正義校定文 卷七……221

春秋左傳正義校勘記 卷七……23

また既発表論文は以下の通りである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計9件)

- ① 野間文史 五經正義の史記評価—讀五經正義札記(十) 東洋古典學研究第26集 p169-186 2008 無査読
- ② 野間文史 五經正義讀解通論(五) 東洋古典學研究第25集 p105-120 2008 無査読
- ③ 野間文史 五經正義讀解通論(四) 東洋古典學研究第24集 p149-160 2007 無査読
- ④ 野間文史 尚書正義版本小考—八行本『尚書正義』と一九行本『尚書注疏』— 東洋古典學研究第23集 p109-130 2007 無査読
- ⑤ 野間文史 毛詩正義引書索引 広島大学大学院文学研究科論集第67号特輯号1 p1-70(全70頁単行冊子形式) 2006 無査読
- ⑥ 野間文史 採訪報導 從《五經正義》到《十三經注疏》—訪現代日本經學家野間文史教授— 中国文哲研究通訊(台湾中央研究院・中国文哲研究所) 16卷2号 p9-27 2006 有査読
- ⑦ 野間文史 周易正義引書索引 東洋古典學研究第22集 p1-6 2006 無査読
- ⑧ 野間文史 五經正義讀解通論(三) 東洋古典學研究第22集 p101-116 2006 無査読
- ⑨ 野間文史 五經正義讀解通論(二) 東洋古典學研究第21集 p113-130 2006 無査読

[学会発表] (計1件)

- ① 野間文史 《尚書正義》版本小考—八行本《尚書正義》與《尚書注疏》— 第五屆中國經學國際學術研討會(シンポジウム)(台湾・国立政治大学) 2007,11,17

6. 研究組織

(1) 研究代表者

野間 文史 (NOMA FUMICHIKA)

広島大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：20110158

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者